

# 第3章 古神道・密教・修験

日本特有の古神道・密教・修験道は、大自然界の神秘を探求し、その生命の源泉を神・仏として敬い、人として本来の生きる道を示している。迷妄を脱し、真に生きることを先人たちは語る。

## 1 空海伝

悠悠たり悠悠たり太だ悠悠たり  
内外のけんしょう千万の軸あり  
杳杳たり杳杳たり甚だ杳杳たり  
道をいひ道をいふに百種の道あり  
書死え諷死えなましかば本何がなさん  
知らじ知らじ吾も知らじ…  
思ひ思ひ思ひ思ふとも、聖もしることなけん

牛頭草を嘗めて病者を悲しみ  
断し車をあやつって迷方を慙む  
三界の狂人は、狂せることを知らず  
四生の盲者は、盲なることを識らず  
生れ、生れ、生れ、生れて、生の始めに暗く  
死に、死に、死に、死んで、死の終りに冥し

我が習うところの上古の俗教は  
目前にしてすべて利弼なし  
真の福田を、仏の教えに仰がんには如かじ  
軽肥流水を見ては  
則ち電幻の歎きたちまちにおこり  
支離懸鶉を視ては、因果の悲しみ休せず  
眼に触れて我を勤む、誰か能く風を係がん

名山絶嶮の所、嵯峨孤岸の原  
遠然として独り向い淹留して苦行す  
阿波の大竜ヶ嶽に登って修行し  
或は土佐の室生門の岬において寂暫す  
心に観ずるに、明星口に入り  
虚空蔵の光明照らし来て  
菩薩の威を現わし、仏法の無二を示す  
或は石峰に跨って糧を断って轆轤たり  
金巖に登り雪に逢って坎凜たり  
厳冬の深雪には精進の道を顕し  
炎夏の極熱には朝暮に懺悔する

空海少年の日、好んで山水を渉覧し  
吉野より南に行くこと一日  
更に西に向かう兩日程にして平原の幽地あり  
名ずけて高野という  
今思わく、上は国家の御為め、下は諸の修行者のために  
荒藪を切りひらきて修禪の一院を建立せんと

高山は風起り易く、深海は水量り難し  
空際は人の察する無く、法身のみ独り能く詳らかなり  
太陽は矢の如くに運び、四季の運行に人は死に行く  
遮那は中央に坐す  
三密、刹土に遍く、虚空に道場を嚴る

天地は経籍の箱、万象一点に含む  
日月空水を光らし、風塵妨ぐる所無し  
光明法界に満ち、一字津梁を務む

是非同じく説法なり、人我ともに消亡す  
定慧心海を澄ましむれば、無縁にしてつねに湯湯たり

山河の氣、五智の莊嚴、本より豊かなり  
天食、天衣、自然に雨降り  
無為、無事にして帝功を忘れん

去来大空の師

一身の三密は塵滴に過ぎ  
十方法界の身に奉獻す  
智火わずかに放って灰留まらず  
不滅不生にして三劫を越え  
四魔百非憂ふるに足らず  
大虚円光遍し、寂寞無為にして楽しきや不や

吾れ諸法を観るに譬ば幻の如し  
総て是れ衆縁の合成する所也  
因縁を尋ねもとむれば曾て無性なり  
不生不滅にして終始無し

大空三昧は吾が妃なり  
一心に安住して分別すること無かれ

瑜伽の境界は特に奇異  
法界の炎光自ら相暉く  
深く修して観察すれば原底を得  
大日円円として万徳あまねし  
三密静かにあい応じ  
諸尊感応してただちに來り訪る

如如不動にして人の為に説き  
兼ねて如来大悲の衣を着よ  
万法自心にして本より一体なり  
実相如如にして一味の法なり

如是我聞、一時、薄伽梵  
如来加持広大金剛法界宮に住し給ふ  
一切の持金剛者  
みなことごとく集会せり  
その時にヴィルシャナ世尊  
一切如来一体速疾力三昧に入って  
自証の法界体性三昧を説いてのたまはく

我、本不生を覚り…

（地大、諸法本不生の義…大円鏡智）

語言の道を出過し…

（水大、字離言説……………平等性智）

諸過解脱することを得…

（火大、字清浄無垢塵……………妙觀察智）

因縁を遠離し…

（風大、字因業不可得……………成所作智）

空は虚空に等しと知って…

（空大、等虚空……………法界体性智）

如実相の智生ず…

（識大、我覚、因位には識・果位には智）

すでに一切の暗を離れぬれば、第一実無垢也

ア・ビ・ラ・ウン・ケン・ウン

世尊、云何が如来応供正遍知を得たまひ  
無量の衆生のために広演分布したまう  
一切智智は、何をもってか因となし  
云何が根となし、究竟とするや

菩提心を因となし

大悲を根となし、方便を究竟となす

云何が菩提とならば実の如く自心を知るなり

諸法は無相、心と虚空界と菩提は無二なり  
是の阿耨多羅三藐三菩提は  
悲を根となして、方便波羅蜜を満足す

これ初法明道と名づけ  
是に住して修学せば、除一切蓋障三昧を得  
この菩薩は信解力の故に  
久しく勤修せずして一切諸法を満足すべし

秘密莊嚴住心とは  
これ究境じて自心の源底を覚知し  
実の如く自身の数量を証悟す  
いわゆる胎藏界会の曼荼羅と  
金剛界会の曼荼羅となり  
豎には十重の浅深を顕はし  
横には塵数の広多を示す

心続生の相は諸仏の大秘密なり  
即ちこれ豎に説くなり  
異生羝羊住心、愚童持齋住心  
嬰童無畏住心、唯蘊無我住心  
拔業因種住心、他縁大乘住心  
覚心不生住心、一道無為住心  
極無自性住心、秘密莊嚴住心  
前九種の住心は自性なく背暗向明  
転深転妙皆因なり

次に、三藐三菩提の句を志求するものは  
心の無量を知るをもつての故に  
身の無量を知る  
身の無量を知るが故に、智の無量を知る  
智の無量を知るが故に即ち衆生の無量を知る

衆生の無量を知る故に即ち虚空の無量を知る  
これ即ち横の義なり

衆生の自心、その数無量なり  
衆生狂酔して覺せず知せず  
大聖、機根に随ってその数を開示したまふ

かくの如きの身心の究境を知るは  
即ち秘密莊嚴の住処を証するなり  
しかして、大智灌頂地に入りぬれば  
自ら現に三三昧耶の句に住す  
仏部(身密), 蓮華部(語密), 金剛部(意密)なり

自身を知るは即ち仏心を知る  
仏心を知るは即ち衆生の心を知るなり  
三身平等なりと知るを、大覺と名づく

顕葉塵を払い、真言庫を開く  
秘法ただちに陳じて、万徳即ち証す

仏法はるかにあらず、心中にして即ち近し  
真如他にあらず、身を捨てて何んか求めん  
迷悟、我にあらば、発心すれば即ち至る  
明暗、他にあらざれば、信修すれば忽ち証す

如来は本心、一切の妄念みな本心より生ず  
本心は主、妄念は客なり

菩提心とは諸仏の清浄法身なり  
また衆生の染浄の心の本なり  
衆生界即法身、法身即衆生界なり  
法身即ち涅槃、涅槃即ち如来なり

善く妄分別の心思より生ずる所を除かんには  
菩提心を憶念せよ

真言密教は法身の説  
秘密金剛是最勝の真なり  
三密を門となし、即身成仏す

この身を捨てずして神境通を速得し  
大空位に遊歩して、しかも身秘密を成ず

六大無碍にして常に瑜伽なり……体  
四種曼荼各離れず……相  
三密加持すれば速疾に顕はる……用  
重重帝網なるを即身と名づく……無碍  
法然に薩般若を具足して  
心数心王刹塵に過ぎたり  
各五智無際智を具す  
円鏡力の故に実覚智なり……成仏

声字実相とは、法仏平等の三密  
衆生本有の曼荼なり  
五大にみな響あり……声体尽  
十界に言語を具す……真妄字極…  
六塵ことごとく文字なり……内外字表  
法身はこれ実相なり……実相窮

諸仏を吾が身中に引入す  
これを入我という  
吾が身を諸仏の身中に引入す  
これを我入という、入我我入の故に  
三世諸仏の功德、我が身に修せば  
自然に一切衆生所作の功德となりぬ

動なるを生死と名づけ静なるを涅槃と名づく  
覚れるを諸仏と名づけ迷えるを衆生と名づく  
衆生迷えるが故に多の衆生を成じ  
諸仏悟れるが故に会して一仏となる  
衆生痴暗にして自ら覚るに由なし  
如来加持してその帰趣を示したまふ

加とは諸仏の護念なり、持とは我が自行なり  
また加持とは喩えば  
父の精をもって母の隠に入るる時  
母の胎蔵よく受持して種子を成長させるが如し  
諸仏悲願力を以て光を放って衆生を加被したまふ  
これ諸仏護念といふ、衆生の内心と諸仏の加被と  
感応の因縁の故に衆生発心し自行修行す

加持とは如来の大悲と衆生の信心とを表す  
仏日の影、衆生の心水に現ずるを加といひ  
行者の心水、よく仏日を感じずるを持と名づく  
真言行者この義を觀察して  
手に印契を作し、口に真言を誦じ、心三摩地に住すれば  
三密相應して加持するが故に早く大悉地を得る

真言は不思議なり、観誦すれば無明を除く  
一字に千理を含み、即身に法如を証す  
行行として円寂に至り  
去去として原初に入る  
三界は客舎の如し、一心はこれ本居なり

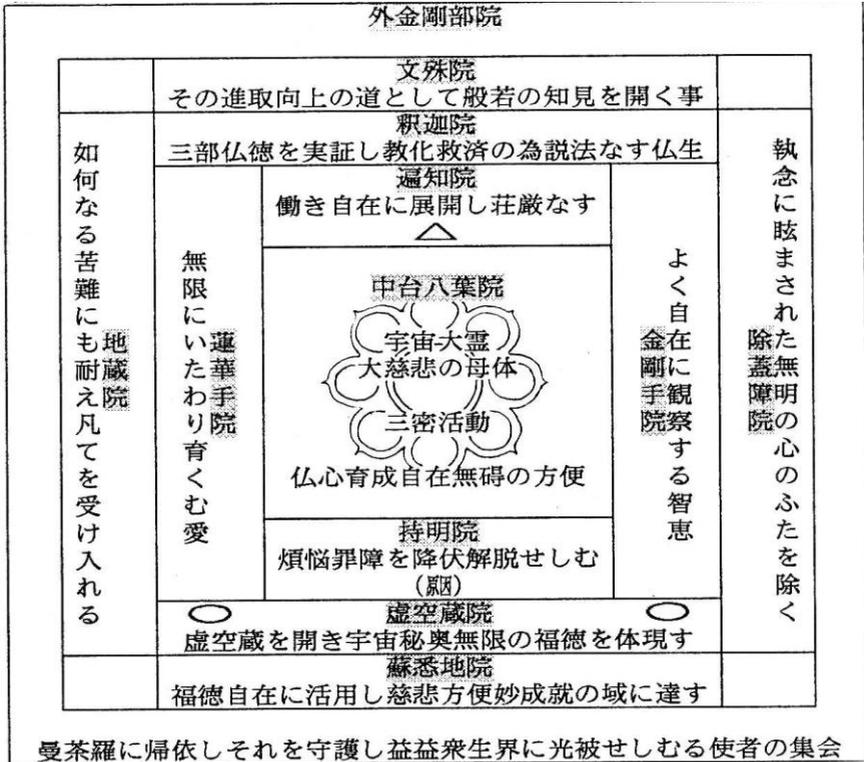
精しく本尊の三摩地を修し  
速やかに三妄執を越えて、疾く三菩提を証し  
二利を円満し、四恩を抜済すべし

五智華台の大日如来  
 両部界会の諸尊聖衆を帰命頂礼したてまつる  
 大慈大悲をもって壇場に降臨し  
 随喜護念して悉地を授与し給へ  
 入我我入しよく加持する故に  
 六大無礙にして常に瑜伽なる故に  
 塵数の眷族は無来にして来り  
 海滴の分身は不撰にして撰し給へ  
 願はくは我この幻化の身業をもって  
 願はくは我この幻化の真言を誦じ  
 願はくは我この幻化の有情を化し  
 願はくは我この幻化の菩提を証せん  
 一念の浄心はあたかも帝網の如し  
 両部界会、何ぞ影向したまはざらん  
 一刹の深信はなほし珠玉の如し  
 十方の諸仏、何ぞ証明せざらん  
 百千の真言は即ち一心に列り  
 恒沙の曼荼は即ち一身に布けり

(空海)



【胎蔵界・妙成就法】



法界体性智摩訶毘盧遮那如来の大靈的働きの内容を胎蔵界曼荼羅として表す。森羅万象悉く大日如来(中央)の身体と言葉と意識の三の働きの交合し展開せる三密の無尽莊嚴世界なり。個々現象は互いに因となり縁となり果となり相関係しつつ、生じ、住し、壊れ、滅するを繰り返し果てるときがない。かくて靈的躍動を続ける大宇宙は即大日如来の法爾自然の曼荼羅である胎蔵界は一切智智を源とし、大慈悲を根とする万物進展の理法を表す。これに参入し、本尊と向い自身円壇、三密五大内護摩法を修し、諸願成就・煩惱滅去を祈念する。

- (四如来) 宝幢、開敷華王、無量寿、天鼓雷音
- (四菩薩) 普賢、文殊菩薩、觀自在、弥勒菩薩
- (妙成就) 不動尊、千手觀世音、金剛蔵王、虚空蔵

【金剛界・キャカラバア】

空



ほっかいたいしょうち  
法界体性智 遍在・無碍・自由  
第9 菴摩羅識(アマラ) ⇒宇宙の根源

風



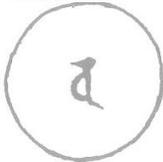
じょうしょさくち  
成所作智 因縁を振払う働力  
第5 眼・耳・鼻・舌・身 ⇒無我の働き

火



みょうかんさつち  
妙観察智 穢を焼清する働力  
第6 意識 ⇒因縁の観察

水



びょうどうしょうち  
平等性智 言語分別洗清の働力  
第7 末那識(マナ) ⇒般若の智慧

地



だいえんきょうち  
大円鏡智 宇宙本体不動の働力  
第8 阿頼耶識(アラヤ) ⇒仏性具足

【五相成身観】

- 通達菩提心 (われは心に通達す)  
om citta prativedham karomi
- 修菩提心 (われ菩提心を発さん)  
Om bodhi cittam utpādayāmi
- 成金剛心 (現前せよ金剛尊よ)  
Om tiṣṭha vajra
- 証金剛身 (われは金剛を身とする)  
Om vajrātmako' ham
- 仏心円満 (一切如来があるが如くわれは在り)  
Om yathā sarva tathāgatās tathā ham

## 【十波羅蜜道】

〈金剛界〉…仏界	〈十界〉	(右手)
地 ①布施 (与える)	———天人	———小指
水 ②持戒 (戒律を持する)	———声聞	———薬指
火 ③忍辱 (耐え忍ぶ)	———縁覚	———中指
風 ④精進 (精進する)	———菩薩	———人差指
空 ⑤禅定 (心を安定する)	———仏	———親指

〈胎蔵界〉…衆生界	〈十界〉	(左手)
地 ⑥般若 (本源の智)	———地獄	———小指
水 ⑦方便 (衆生を益する)	———餓鬼	———薬指
火 ⑧願 (如来の祈願行)	———畜生	———中指
風 ⑨力 (如来の成就力)	———修羅	———人差指
空 ⑩智 (如来の実相智)	———人間	———親指

## 【護摩供養法】

- 増益法…福德の増 (東面に向き、黄色で、正方の壇)
- 調伏法…怨敵降伏 (南面に向き、青黒で、三角の壇)
- 敬愛法…妄念妙愛 (西面に向き、赤色で、蓮華の壇)
- 息災法…災厄滅除 (北面に向き、白色で、正円の壇)

